

【演題】善縁にあえば

- ・ 本堂で手を合わせる孫娘さん
- ・ 散歩の途中、お参りに寄ったご家族

【引用（抜粋）】

人の心はもともと善悪はない。善悪は縁に随って起こるのである。

心には一定の形があるわけでなく、縁にひかれて善くも悪くもなることである。だから、善縁にあえば心も善くなり、悪縁に近づけば心も悪くなるのである。自分の心が元来悪いのだと思っではならない。ただ善縁にしたがうべきなのである。

また言われた、人の心はどこまでも人の言葉によって左右される物だと思う。

だから、仏道を学ぶ人は、たとい道心がなくても、立派な人に近づき、善縁にあって、同じことを幾度も聞いたり見たりすべきである。

このことは一度聞いたし、見もしたから、もう見なくても聞かないでもいいと思っではならない。一度道心をおこした人も、同じことであっても、聞きたびにみぎがかかって、ますますよいのである。

まして無道心の人も、一度二度聞いているうちは心をひかれることがなくても、たびたび重ねて聞いていると、霧の中を歩く人が、いつ濡れたとも気がつかないうちに、着物がしめるように、おのずから、自分の無道心を恥ずかしく思う心もおこり、ほんとうの道心もおこるのである。

だから、知っている上にも、教えの書物を重ね重ね読みなさい、聞きなさい。師の言葉も、聞いた上にもそのまた上にも、重ね重ねて聞きなさい。ますます深い内容があるのである。仏道のために障害となりそうなことには、前もって近づいてはならない。善友には苦しくても近づいて、仏道を行すべきである